米軍空中給油機
移駐問題

鹿屋基地は、空中給油機の「訓練・運用基地」に

4月28日、鹿屋市を訪れた防衛施設庁の戸田次長らが、空中給油機部隊の移駐先変更の経緯等を説明。

米軍空中給油機部隊の移駐については、米軍による運用効率の観点から岩国基地へ移駐することになり、鹿屋基地には「ローテーションで展開し、訓練・運用を行う」ことが、日米両政府間で合意されました。

このことについて4月28日に、防衛施設庁による鹿屋市への説明が行われました。

運用形態などの詳細は明らかにされず

4月28日に、防衛施設庁の戸田次長らが、空中給油機部隊の移駐先変更の経緯等に関する説明のため鹿屋市を訪問。文書等はなく、口頭による説明を約1時間にわたって行いました。

説明の主な内容は、

●空中給油機部隊は、先の中間報告においては「鹿屋基地が優先して検討される」としていたが、空中給油機は部隊員300名に加え、後方支援要員を相当数必要とする。

後方支援用員を鹿屋に置くことは効率的でなく、米軍の運用上、岩国基地が効率的であるという米国側の内部事情等により、岩国を移駐先に決定したこと。また、これに伴い岩国の運用の増大を緩和するためローテーションで鹿屋基地等に展開すること

●鹿屋基地は、空中給油機の「訓練・運用基地」として位置付けられることとなり、その詳細は、今後、日米間で検討されること

●部隊は常駐しないことから、鹿屋基地の既存施設の活用を基本とし、新たな施設整備の必要性については、今後、検討すること

●中間報告に盛り込まれていた「日本の他の場所からの追加的な自衛隊、米軍の航空機は、鹿屋基地に一時的に展開する」ことについては、変更はない。

というものでした。

このような説明に対し、山下市長は、大隅地域全体の最終的な総意として『断固、移駐反対』を国に申し入れたにもかかわらず、このような合意案が取りまとめられたことは大変残念であること、また、新たな負担が増えることに対し、これまで国防の一翼を担ってきている「基地のまち」として、大きな戸惑いを感じるとともに、反対の立場に変わりはないことを伝えました。

今回の説明を受けたことから、これから鹿屋市としては、前回の中間報告と同様に、まず鹿屋市議会に報告・説明を行い、意見を頂き、併せて『鹿屋市米軍移転問題に関する意見交換会議』など関係会議を早急に開催し、広く市民・地域の意見を伺い、改めて集約・整理して、鹿屋市としての考え方を取りまとめ、国に伝えることを申し述べました。

なお、5月2日未明に米国ワシントンで開かれた日米安全保障協議委員会において、米軍再編の最終の取りまとめが、合意・発表されました。

（合意文書の鹿屋市関係分）

KC130飛行隊は、司令部、整備支援施設及び家族支援施設とともに、岩国飛行場を拠点とする。航空機は、訓練及び運用のため、海上自衛隊鹿屋基地及びグアムに定期的にローテーションで展開する。KC130航空機の展開を支援するため、鹿屋基地において必要な施設が整備される。

この文書に盛り込まれた内容についても、これまで同様、不明な点が多いことから、文書の内容とともに、詳細が分かり次第、市民の皆様にご報告を行い、また、各会議の結果等についても、お知らせしていく予定です。

【問い合わせ】
市地域政策課
☎0994-31-1154